

NPC2014 札幌実行委員会活動

これまでの活動経緯と今後の予定・課題について以下にその概要を報告する。なお、詳細については水化学部会 HP に実行委員会の全議事録をアップロードしているので、これを参照いただきたい。

(1) 始動

2011 年 10 月の水化学部会運営小委にて、2014 年札幌での水化学国際会議（NPC2014 札幌）開催が決定され、その準備・運営の任に当たる実行委員会設置が認められた。同年 11 月の第 1 回実行委員会では、準備活動の基本工程に加え、3.11 以降の厳しい状況下で活動を開始するに当たり、体制と基本方針について議論が行なわれ以下の通り決定した。

- ・ これまでのように国や産業界からの直接支援は期待できないことから、参加者数の確保が不可欠である。このため、魅力ある企画づくりと、適切な対象にタイムリーな情報発信を行う。また、徹底した経費削減に加え、新たな試みとして、展示ブースなどのスポンサー募集による収入獲得を目指す。さらに、これらの活動について、国内関係機関からの協力・助言を得るため、NPC2014 札幌組織委員会を設置・運営する。
- ・ 過去の国内開催は日本原子力産業会議（現 日本原子力産業協会）が主催し、専任の担当者が準備・運営を行なったが、今回は、原子力学会の主催となり、実行委員会が総力を結集しこれに当たる必要がある。ボランティアな活動となるため、負荷が偏らないよう適切に役割を分担すると共に、ボランティアでは困難な業務については専門業者に委託することで、長期にわたる準備活動を無理なく行う。

(2) これまでの活動の流れ

2012 年 1 月に勝村委員長が会場候補の視察を行い、会場をロイトン札幌に、また会期を 2014 年 10 月 26~31 日とすることを最終決定し、同年 2 月に原子力学会に対して主催申請を行い受理された。また、同年 5 月に第 1 回組織委員会を開催し、準備活動の基本となる趣意書・事業概要書・予算書について審議し承認を得た。

これらを受けて、2012 年 9 月のファーストアナウンスメント発行と NPC2014HP 開設を当面の目標として、準備活動はいよいよ具体化の段階を迎えた。これに伴い、業務の一部を外部委託する必要が生じ、項目や範囲を精査した上で専門業者と契約を締結した。また、NPC2014 札幌のポストカンファレンスとして開催を予定している「放射線分解および電気化学に関する国際ワークショップ」（略称、RADEM'14）についても、NPC2014 札幌と平行して準備活動を行うことになり、新たに準備担当グループを設置すると共に、同年 8 月

には原子力学会への主催申請を行なった。

2012年9月末にパリで開催されたNPC2012では、参加者へのファーストアナウンスメントの配布と閉会式での勝村実行委員長による参加要請を行なった。さらに、NPC2014を魅力あるものとするため、日本人参加者の協力を得て、最新の水化学関連課題や技術動向を調査すると共に、参考とすべき会議運営のポイントを収集した。さらに、海外参加者に対するNPC2014札幌への個別参加勧誘、参加企業に対する展示ブースの出展を打診など活発な活動を行った。

NPC2012後は、論文募集の開始を中心に準備活動を進め、2013年1月末には予定通りCall for Paperを発行、同年4月からはHP上でオンラインのアブストラクト受付を開始した。さらに、5月には第2回組織委員会を開催し、NPC2012パリでの水化学課題と最新技術動向を報告し、NPC2014札幌の開催意義を再確認すると共に、準備活動における課題や取り組みについて報告し、協力と助言を仰いだ。

これらの諸活動と平行して、情報ネットワークの構築と情報発信にも注力した。具体的には、HPの充実、国際諮問委員の委嘱、および、国内外の原子力関係機関・学協会からの協賛取得を進め、これらを通じてNPC2014関連情報を適宜配信してきた。さらに、水化学に関係のある分野のイベントをリストアップし、これに参加あるいは関係する方々の協力を得て会場でアナウンスメントやCall for Paperを配布するなど、地道な活動にも取り組んでいる。

(3) 今後の予定・課題

実行委員会では、今後、以下の2つの重要課題に取り組む予定である。

① 第一福島発電所事故に関する特別セッションの企画

NPC2014の目玉となる重要な企画であり、事故事象の分析と対策、および、廃止措置に至るまでの現場の保全と修復における水化学の関与・貢献、反省と教訓について世界に発信していくことを念頭に準備を進める。

② 健全収支に向けたアクションプランとその実行

現状のNPC2014参加予定者数はまだ目標とは隔たりが大きいと推定され、今後の論文投稿数や参加申し込み数の状況によっては、さらに、論文発表依頼・参加登録勧誘などの活動を強化する。また、徹底した支出削減は当然であるが、一定の収入確保も健全収支のための必要条件になっており、本年度下期からは、初となるスポンサー募集活動に取り組む。

(4) おわりに

我が国の原子力を取巻く厳しい現状の中で、上述の通り、実行委員会メンバーはNPC2014開催に向け、全員一丸となって熱心に準備活動を進めている。その成否を決定するのは発表論文と参加者である。特に、水化学部会員の皆様には、両面でのご支援・ご協力を強く期待しており、NPC2014HP <http://www.npc2014.net/>をご高覧の上、是非、積極的な論文発表あるいは参加をお願いしたい。

NPC2014 札幌 実行委員会幹事
株式会社 東芝 瀧口英樹